



南部町赤十字奉仕団だより

NO15

平成24年度 冬号
平成25年2月15日発行

発行・編集 南部町赤十字奉仕団 広報部
事務局 南部町社会福祉協議会
電話・0859-66-2900

年頭のあいさつ
委員長 生田 佐知子

新年あけましておめでとうござい
ます。今年度の事業も団員の皆様のご協
力によりスムーズに行われ感謝してお
ります。今後は二月に出前講座・救命
救急法の講習、三月にはふれあいク
リーンウォークがありますのでよろし
くお願い致します。

昨年十月二日、伯耆の国ゆづらぐ
十周年記念式典が開催されました。式
典において、ボランティアとして、南
部町赤十字奉仕団・フラワーボラン
ティア・リラクゼーションケアと別々
に感謝状を頂き大変光栄に思いまし
た。これも団員の団結力の賜物だと思
います。

又、十月二十二日「まなびタウン」
で委員長研修会がありました。テーマ
は社員増強でした。日本赤十字社の
活動資金は、社員（社員）と寄付金を
併せたもので賄われています。

赤十字奉仕団鳥取県支部は、平成二
十四・二十五年度赤十字社員増強
スローガンとして「手をつなぎ広げよ
う・赤十字社員の輪」と決まり、多く
の方に赤十字社員になって頂き、南
部町赤十字奉仕団に加入してもらい
「人間を救うのは人間だ」と言う精神
で、頑張っていきたいと思っております。
今後とも団員の皆様のご協力・ご支
援を宜しくお願い致します。



▲みんなで大合唱 ▲よっ、名人芸!! ▲いつも仲が良いですね～ ▲流石です!

「新年会に参加して」
溝口 人貴光

一月十六日（水）、恒例と
なっています新年会が開催さ
れました。緑水園に団員二十
一名が参集して、榎原さんの
進行で、にぎにぎしく始まり
ました。

先ず生田委員長さん、昨年
の活動に対する労いの言葉、
そして新年に向かっようよ
いよい活動が出来たようよ
にと挨拶がありました。事務
局・鴨木・麹谷さん大変忙し
い中、古事記千三百年を思わ
せる様な七ッ道具の入った大
きな袋を肩にかけ、馳せ参じ
て頂きました。

宴会もたけなわになり踊・
田植え唄・カラオケ・詩吟・
安来節。どうしようもない調習
と笑いの最中、突然鴨木さん
よりクイズが出て、みんな真
剣になりました。「赤十字発
祥の国は?」「創立は何年何
月?赤十字のマークは?」
等々、勉強する事も忘れませ
ぬでした。

曇り空でしたが、一日楽し
い親睦の会でした。緑水園よ
り四人の美女の踊りのサービ
スもあり、最後にみなさんで
「星影のワルツ」を合唱しま
した。



こぼれ、団員の素顔や
趣味・お宝を紹介するコーナーです

趣味から宝へ ふじりん（風蘭）
三鴨 多恵子

清楚で香り高い稀少山野草「ふじ
らん」を、バイオテクノロジーの活
用によって人工増殖することが目的
で、平成九年町内の有志が旧会見
内に自生する「ふじらん」から種子
を採取し、寒天・砂糖・肥料等を入
れた培地に、無菌的に増殖して
しました。根は灰白色で、太く二
三年伸長を続け五月中旬に根がゆっ
くり伸び二十センチを越す程になり
花は七月初めの根元から葉芽が伸
び三月十センチの細い花茎の先に甘
い芳香を漂わせる白い花が咲きま
す。そんな研究をはじめた十五年余り
今では過去の事となりましたが毎年
清楚な香り高
い花が咲いて
くれ、趣味で
始めたことが
宝となり楽し
んでいます。



赤十字奉仕団員信条

- 一、すべての人々の幸せを願い
陰の力となって人々に奉仕する
- 一、常に工夫して人々のために
よりよい奉仕ができるよう努める
- 一、身近な奉仕を広げ
すべての人々と手をつないで
世界の平和につくす

「社会福祉功労者
県知事表彰を受賞して」
西伯分団 法勝寺 藤田 和子

図らずも此の度、ボランティ
ア活動とおしての社会福祉に
貢献したことで、県知事の表彰
を受賞しました。身に余る光栄
と存じます。

ふりかえれば、やまと園の奉
仕を初めとして、西伯町赤十字
奉仕団の設立、各方面の奉仕活
動数々が思い出されます。また
その間、多数の方々との交流が
出来ましたこと、誠に幸せなこ
とでした。厚くお礼申し上げます。

「南部町社会福祉協議会 会長表彰受賞について」

先の南部町ボランティア
フェスティバルにおいて、平
成二十四年度ボランティア・
福祉活動功労者として左記の
方々が標記の表彰を受けられ
ました。

これは、永年にわたる赤十
字奉仕団員としての功労が認
められたものです。
本当におめでとうございま
した。

益々のご活躍をお祈りいた
します。

(東西町) 五丁 敏枝 さん
(手間) 板持 薫 さん
(天津) 桑名 紳美 さん

《 編集後記 》

新聞等で大阪市立桜宮高校
の体罰問題が報道され、暴力
は絶対容認出来ないと言っ
ていた処、一月十八日中東では、
テロに依るアルジェリア人質
事件で多国籍の人びとが殺害
されました。

この様な卑劣な行動は決し
て許されません。許してはい
けません。今、二十一世紀は人
類の英知で、日赤の歌詞のよ
うな平和な世界の実現に向け
行動しなければならぬと思
います。



新入団員紹介
阿代田 正子さん（鴨部）

「何もわからず、誘われるまま入
団し、これから出来るだけ行事に
参加して勉強したいです。」

NHK 海外たすけあい街頭募金

寄付で支えられる支援活動

世界の苦しむ人々を救うための支援活動は、皆さまからお寄せいただく寄付金で支えられています。

あなたの寄付で、できることがたくさんあります。



振込で 全国の郵便局及びゆうちょ銀行直営店、銀行などの金融機関で

お電話で ナビダイヤル 0570-009595
または、日本赤十字社海外たすけあいキャンペーン係
TEL 03-3437-7081

窓口で NHK各放送局、最寄りの日本赤十字社の都道府県支部、病院、献血ルームで

ホームページで <http://www.jrc-kaigai.jp>

平成24年度事業計画 8.3億円

紛争で苦しむ人への支援 ……2.2億円
武力紛争による犠牲者の緊急支援や、避難生活を送る人への支援を行います
【主な対象国】シリア/アフガニスタン/ソマリア/スーダン/南スーダン/その他紛争が発生した国

災害で苦しむ人への支援 ……3.2億円
大規模災害発生時の救援活動に加え、将来の災害に備えるための活動を支援します
【主な対象国】ベトナム/インドネシア/ネパール/その他突発的な災害に見舞われた国

病氣から身を守るための支援 ……2.4億円
医療、保健、衛生分野での知識の普及、生活環境の改善などを支援します
【主な対象国】ケニア/ウガンダ/シエラレオネ/ミャンマー/カンボジア

事務経費 ……5,000万円

コンビニで ファミリーマートの情報端末「famirポート」、その他コンビニエンスストアでもホームページで申込んだいただいた寄付のお支払が可能です。

「伯耆の国」より感謝状



昨年十月一日、社会福祉法人「伯耆の国」創立十周年記念式典が「ゆうらく」地域交流スペース「げやき」にて六十名の出席のもと挙行されました。私も九名参加いたしました。当日は理事長式辞、来賓祝辞、そのあと記念講演となり、今回講師には東京より日本ユニットケア推進センターのセンター長、秋葉郁子氏のお話でした。その中でユニットケア推進の立場から、「ゆうらく」が他に先駆け導入された、そ

の意義を高く評価されました。ユニットケアの本質についても話され、更に職員の方にも多方面にわたる日々の努力をされることも求められました。また、「生花」についても触れられお誉めをいただきました。私は、初代委員長として「ゆうらく」との関わり、ボランティアを現在までまなび、現在は本団事業・フラワー部・リサイクル・リノベーションと各部門に分け活動してきたこと。その結果皆様方と実績が認められたことを非常に嬉しく思い、これも団員の

皆様一人一人が、その力を理解されご協力いただいたたまもので、この日の表彰を一区切りとし、また新たな気持ちでこれから活動もおし進めに行きましょう。赤十字奉仕団としての誇りと豊かな心の想像力、継続性をモットーに頑張りたいものです。団員の皆様、本当におめでとうございました。これからは、私も頑張ります。よろしくお願いいたします。(顧問 秦 和子)

団員交流 スポーツ大会

榎原 良

昨年の九月六日午後、第三回団員交流G・G大会を二十三名の参加で開催しました。外廻りコースはドーム内、内廻りコースをドーム裏の緑地帯と変則的なコース取りでしたが、皆さん楽しくプレーに集中できたようです。結果は次のとおりです。

- 一位 山中桂子 さん
- 二位 岡田京子 さん
- 三位 竹内敦子 さん
- 四位 亀尾武彦 さん
- 五位 頼田方生 さん

基礎研修に参加して

生田 佐知子

昨年九月二日、西部地区赤十字奉仕団基礎研修会が、ふれあいの里で開催されました。参加者は七十名、南部町奉仕団から二名参加しました。目的は「赤十字の基礎原則の理解と団員としての自覚を深めるとともに、各奉仕団の連携・交流を図る」と言う事で、講演、午後は、午前中に学習した内容を踏まえた研修が行われました。参加者の感想は、「赤十字の歴史や傷病者の搬送方法が良く理解できた」、「復習が出来て良かった」、「又少し疲れた」、「クイズが難しかった」と言う意見もありました。が、楽しい研修でした。初めて参加された阿代田さんも、とても勉強になりました。人間を救うは人間です。善意の募金に協力して下さった方々に厚くお礼申し上げます。

「NHK 海外たすけあい募金」に参加して

藤田 淳史

日本赤十字社とNHKとの共催による標記の募金が行われ、私達奉仕団員も、十月十六日と二十一日の二日に募金活動に協力しました。地区ごとに、リレー形式で丸合前・ウエルネス・コメリ前に立ち、募金を呼びかけました。今回は募金箱に溜まっていた現金が見えるようにしようとの発案で、急遽改造した募金箱を胸の前に掛けて、背中からぞくぞく冷え込む寒さの中、長時間立ち募金を呼びかけました。

この募金の主旨は、海外の紛争や、災害に苦しむ人々、生きるための基本的条件を満たされない状況で生活している人々を、支援するための募金キャンペーンです。知合いの顔を見つければ、心安く声をかけ、知らぬ振りして通り過ぎようとする人には、大きな声で「お願いします」と声をかける。募金の成績を上げようと努力を続けた一時間半でした。

「募金の結果報告」

- ・ 会見分 一、三十四円
- ・ 十六日分 二七、四五三円
- ・ 二十一日分 三七、八九七円

合計 六六、六六四円

(十二月二十一日県支部へ 送金しました)

ありがとうございました



▲ウエルネス前



改良された募金箱です。